

## ■ 第 1 学年

## [第 1 学年の目標]

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。
- (4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。

## [第 1 学年の評価規準]

[算数への関心・意欲・態度]

数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもとうとしている。

[数学的な考え方]

算数的活動を通して、数理的な処理の仕方を工夫したり考えたりすることができる。

[数量や図形についての表現・処理]

整数の計算が確実にでき、それを用いるとともに、長さ、面積、体積を比較したり、時刻を読んだり、身近な立体を観察したり、構成したりすることができる。

[数量や図形についての知識・理解]

数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の表し方や計算の意味、長さ、面積、体積の比較の仕方や時刻の読み方がわかる。

## A. 数と計算

- (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。
- (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
- (3) 具体的な事物について、まとめて数えたり等分したりし、それを整理して表すことができるようにする。

単元	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
と計算 A. 数		・数と計算について親しみを持ち、数と計算について様々な経験をもとうとしている。	・ものの大きさや順番を調べ、大きさなどを図や式に表す活動を通して、数の表し方や計算の仕方を工夫し、考えることができる。	・加法及び減法についての簡単な計算が確実にでき、それらを用いることができる。	・数についての感覚を豊かにするとともに、数の意味と表し方や、計算の意味がわかる。
導 入	・条件や観点に応じてものの集合をとらえ、分類整理したり、数量の比較をしたりすることができる。	・数量に関心を持ち、観点や条件に応じて集合をとらえようとしていたり、個の数を比べようとしていたりしている。	・観点を決め、いろいろな仲間分けを考慮することができる。	・1対1対応によって、個数の相等、多少を比べることができる。	・1対1対応による、個数の相等や多少の比べ方がわかる。
	1. 仲間集めをすることができる。	・進んで集まりを作ろうとしている。	・ある観点から「～の仲間」としてとらえることができる。	・同種のものの集まりを意識し、仲間を集めることができる。	・同種のものの集まりを意識し、集まりの作り方がわかる。
	2. 1対1対応によって数量の比較ができる。	・1対1対応の考えを用いて比べようとしている。	・1対1対応を用いた比べ方を考えることができる。	①2つの集合の要素を線で結び、直接1対1に対応づけることができる。 ②具体物を半具体物に置き換えて、1対1に対応づけて、数の大きさが比べることができる。	①1対1に対応させる意味がわかる。 ②「おなじ」「おおい」「すくない」などの意味がわかる。
か ず の な ま え	・10までの数字の読み方や書き方、数の大きさがわかる。	・進んでもの数を数えようとしている。	・数詞や数字を用いた、物の数の表し方をとらえることができる。	・10までの数を数えたり、数字を読み書きしたり、数の大きさを比べたりすることができる。	・10までの数の数え方、数字の読み方、書き方がわかる。
	1. 1～5の数を正しく読んだり、書いたり、合成・分解したりすることができる。	・進んで数を読んだり、書いたりしようとしている。	・5までの数範囲で、1つの数を2つの数の和や差としてとらえられる。	①1～5の個数を正しく数えることができる。 ②1～5の数字を正しく読んだり書いたりできる。 ③5までの数についての合成・分解をおはじきで操作したり、数字で書いたりできる。	①具体物、数図と1～5の数の対応がわかる。 ②5までの数がわかる。
	2. 6～10の数を正しく読んだり、書いたり、合成・分解したりすることができる。	・進んで数を読んだり、書いたりしようとしている。	・10までの数範囲で、1つの数を2つの数の和や差としてとらえられる。	①6～10の個数を正しく数えることができる。 ②6～10の数字を正しく読んだり書いたりできる。 ③10までの数についての合成・分解をおはじきで操作したり、数字で書いたりできる。	①具体物、数図と6～10の数の対応がわかる。 ②10までの数がわかる。

え か ず の な ま	3. 1 つもないことを 0 と表すことができる。	・数字の 0 を進んで用いようとしている。	・ものの個数などを表す数に、何も無いという 0 の意味を考慮することができる。	・ 0 の数字を正しく読んだり、書いたりできる。	・ 0 の意味がわかる。
	4. 10 までの数範囲で、2 つの数量や数の大小を比べることができる。	・数の大小に興味をもち、比べようとしている。	・数の大小の比べ方を考えることができる。	・ 10 までの数の大小を比べることができる。	・ 2 つの数量や数の大小を比べる方法がわかる。
な ん ば ん め	・ 10 までの系列や順序、数を用いた順序や位置の表し方がわかる。	・生活の中で順序や位置を数を用いて表そうとしている。	・数の系列や順序についての決まりを見つけることができる。	・ 10 までの数を用いて、順序や位置を表すことができる。	・集合数と順序数の意味の違いがわかる。
	1. 順序や位置を数で表すことができる。	・順序数を進んで用いようとしている。	・順序や位置の表し方を工夫して考えることができる。	①順序を「まえ(うしろ)からなんばんめ」や「うえ(した)からなんばんめ」と表すことができる。 ②位置を「まえ(うしろ)からなんばんめ」や「うえ(した)からなんばんめ」と表すことができる。	①数で順序が表すことができることがわかる。 ②数で位置を表すことができることがわかる。
	2. 集合数と順序数が区別できる。	・個数や順序などを数を用いて表すよさがわかり、使い分けようとしている。	・集合数と順序数の意味の違いを考慮することができる。	・集合数と順序数を区別して用いることができる。	・集合数と順序数の意味の違いがわかる。
い く つ い く つ	・ 10 までの数の合成・分解ができる。	・ 1 つの数を、他の数と関連付けてみようとしている。	・観点や条件を変えて、数を合成したり、分解したりして考えることができる。	・ 10 までの数の構成を、具体物や半具体物を使って説明することができる。	・ 10 までの数の構成がわかる。
	1. 10 までの数を合成したり、分解したりできる。	・ 1 つの数をいろいろな見方で表そうとしている。	・ 1 つの数は、いろいろな表し方ができるとらえることができる。	①10 までの数について「1 と 7 で 8」のような表現で合成できる。 ②10 までの数について「8 は 1 と 7」のような表現で分解できる。	①10 までの数について、2 つの数で合成する方法がわかる。 ②10 までの数について、2 つの数に分解する方法がわかる。
た し ざ ん (1)	・加法が用いられる場面をとらえ、和が 10 までの加法計算ができる。	・加法が用いられる場面の話を進んでしたり、式に表そうとしたりしている。	・合併や増加の場面で、どちらも加法が用いられることに気付き、工夫して答えを求めることができる。	・加法が用いられる場面を式にすることや、和が 10 までの加法計算が確実にできる。	・加法が合併や増加の場面で用いられることや、「しき」「+」「=」の意味がわかる。
	1. 合併や増加の場合について、加法の意味がわかり、立式することができる。	・進んで式に表そうとしている。	・合併や増加が、ともに加法の式で表すことができることに気付く。	①合併や増加の場面を式に表し、結果を計算で求めることができる。 ②「+」「=」の記号を使って立式することができる。	①合併や増加の場面についての加法の意味がわかる。 ②「+」「=」の意味がわかる。
	2. 和が 10 以内になる加法計算ができる。	・進んで加法を用いようとしている。	・作業的、体験的活動を通して、加法計算の仕方について考えることができる。	・和が 10 以内になる加法計算ができる。	・加法計算の仕方がわかる。
	3. 0 を含む加法計算ができる。	・ 0 を含む加法計算がわかり、進んで用いようとしている。	・ 0 を含む加法の意味を考慮することができる。	① 0 を含む加法の式ができる。 ② $2 + 0$ , $0 + 6$ , $0 + 0$ など、0 を含む加法計算ができる。	① 0 を含む加法の式の意味がわかる。 ② 0 を含む加法計算の仕方がわかる。
	4. 計算カードによる、和が 10 以内になる加法計算の練習ができる。	・計算カードを使って、加法計算の練習をくり返ししようとしている。	・式は違っても答えが同じになるものがあることに気付く。	①計算カードを見て、正しく答えが言える。 ②答えが同じになる計算カードを集めることができる。	・計算カードを使って、加法計算の仕方がわかる。
ひ き ざ ん (1)	・減法が用いられる場面をとらえ、被減数が 10 以内になる減法計算ができる。	・減法が用いられる場面の話を進んでしたり、式に表そうとしたりしている。	・求残や求差の場面で、どちらも減法が用いられることに気付き、工夫して答えを求めることができる。	・減法が用いられる場面を式にすることや、被減数が 10 以内になる減法計算が確実にできる。	・減法が求残や求差の場面で用いられることや、「-」の意味がわかる。
	1. 求残や求差の場合について、減法の意味がわかり、立式することができる。	・進んで式に表そうとしている。	・求残や求差が、ともに減法の式で表すことができることに気付く。	①求残や求差の場面を式に表し、結果を計算で求めることができる。 ②「-」「=」の記号を使って立式することができる。	①求残や求差の場面についての減法の意味がわかる。 ②「-」の意味がわかる。
	2. 被減数が 10 以内になる減法の計算ができる。	・進んで減法を用いようとしている。	・作業的、体験的活動を通して、減法計算の仕方について考えることができる。	・被減数が 10 以内になる減法計算ができる。	・減法計算の仕方がわかる。
	3. 0 を含む減法計算ができる。	・ 0 を含む減法計算がわかり、進んで用いようとしている。	・ 0 を含む減法の意味を考慮することができる。	① 0 を含む減法の立式ができる。 ② $3 - 3$ , $3 - 0$ , $0 - 0$ など、0 を含む減法計算ができる。	① 0 を含む減法の式の意味がわかる。 ② 0 を含む減法計算の仕方がわかる。
	4. 計算カードによる、被減数が 10 以内になる減法計算の練習ができる。	・計算カードを使って、減法計算の練習をくり返ししようとしている。	・式は違っても答えが同じになるものがあることに気付く。	①計算カードを見て、正しく答えが言える。 ②答えが同じになる計算カードを集めることができる。	・計算カードを使って、減法計算の仕方がわかる。

単元	目標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
10 よりおおきいかず	・10 より大きい数の数え方, 読み方, 書き方, 大小, 順序, 系列がわかり, 簡単な2位数の加減計算ができる。	・進んで数を生活の中で用いようとして, 簡単な2位数の加減計算に取り組もうとしていたりしている。	・10 のまとまりをつくって, 10 といくつを表すよさを味わうことができ, 簡単な2位数の加減計算の仕方を考えることができる。	・10 より大きい数について, 手際よく数えたり, 正しく読み書きしたりすることができ, 合成・分解, 大小比較などができる。また, 簡単な2位数の加減計算ができる。	・数についての感覚を豊かにし, 10 より大きい数の表し方や, 簡単な2位数の加減計算の仕方がわかる。
	1. 10 より大きい数の唱え方, 数え方がわかる。	・10 より大きい数を, 落ちや重なりなく数えようとしている。	・10 のまとまりに着目して, 手際よく数える方法をとらえることができる。	①10 より大きい数を, 10 のまとまりをつくって, 手際よく数えることができる。 ②10 より大きい数を, 2 とび, 5 とびで手際よく数えることができる。	①10 より大きい数について, 10 といくつというとらえ方がわかる。 ②2 とび, 5 とびで数える方法がわかる。
	2. 10 より大きい数の読み方, 書き方がわかる。	・身のまわりの物の数を数えたり, 書いたりしようとしている。	・10 といくつとらえて, 10 より大きい数の読み方, 書き方を考えることができる。	・10 より大きい数を正しく読んだり書いたりできる。	・10 より大きい数の読み方, 書き方がわかる。
	3. 10 より大きい数を合成したり, 分解したりできる。	・1 つの数をいろいろな見方で表そうとしている。	・10 より大きい数を10 と他の数との和としてとらえることができる。	①10 より大きい数について, 10 といくつで合成できる。 ②10 より大きい数について, 10 といくつに分解できる。	①10 より大きい数について, 10 といくつで合成する方法がわかる。 ②10 より大きい数について, 10 といくつに分解する方法がわかる。
	4. 10 より大きい数の大小や系列, 順序がわかる。	・数直線を使って, 数の順序などを調べようとしている。	・数を数直線上の点に1対1対応させることができる。	①数直線上に10 より大きい数系列を表すことができる。 ②10 より大きい数の大小を比べることができる。	①数直線を使った, 10 より大きい数の順序, 大小の調べ方がわかる。 ②基点としての0がわかる。
	5. $10 + (\text{何})$ , $(\text{十何}) - (\text{何}) = 10$ のような加減計算ができる。	・数のしくみに着目して, 10 といくつの加減計算をしようとしている。	・数のしくみに着目して, 10 といくつの加減計算の仕方を考えることができる。	① $10 + (\text{何})$ の計算ができる。 ② $(\text{十何}) - (\text{何}) = 10$ の計算ができる。	・数のしくみから, 10 といくつについても加法, 減法ができることがわかる。
6. くり上がりやくり下がりのない, $(\text{十何}) \pm (\text{何})$ のような加減計算ができる。	・数のしくみに着目して, 位に気を付けて十何と何の加減計算をしようとしている。	数のしくみに着目して, 十何と何の加減計算の仕方を考えることができる。	①くり上がりのない $(\text{十何}) + (\text{何})$ の計算ができる。 ②くり下がりのない $(\text{十何}) - (\text{何})$ の計算ができる。	・数のしくみから, 十何と何についても加法, 減法ができることがわかる。	
3 つのかずのけいさん	・3口の数の加法, 減法, 及び加減混合の計算ができる。	・増加, 減少が続いて起こる場面を, 1つの式で表そうとしている。	・作業的, 体験的活動を通して, 3口の加減の場面を1つの式に表して, 計算の仕方について考えることができる。	・増加, 減少が続いて起こる場面を, 1つの式で表すことができる。	・3口の加減の式が用いられる場合や意味がわかる。
	1. 3口の数の加法の式の意味がわかり, 計算ができる。	・3口の数の加法を1つの式に表すよさに気付いている。	・3口の数の加法の場面をとらえて, 1つの式に表すことができる。	・3口の加法計算ができる。	・3口の加法の式の意味がわかる。
	2. 3口の数の減法の式の意味がわかり, 計算ができる。	・3口の数の減法を1つの式に表すよさに気付いている。	・3口の数の減法の場面をとらえて, 1つの式に表すことができる。	・3口の減法計算ができる。	・3口の減法の式の意味がわかる。
	3. 3口の数の加減混合の式の意味がわかり, 計算ができる。	・加法と減法が混じった場合でも, 3口の数を1つの式に表そうとしている。	・加法と減法が混じった場合でも, 3口の数を1つの式に表すことができる。	・3口の加減混合の計算ができる。	・3口の加減混合の式の意味がわかる。
たしざん (2)	・ $(1 \text{ 位数}) + (1 \text{ 位数})$ でくり上がりのある計算の仕方がわかる。	・進んでくり上がりのある計算を用いようとしている。	・くり上がりのある計算の仕方を, 10の補数に着目して考えることができる。	・ $(1 \text{ 位数}) + (1 \text{ 位数})$ でくり上がりのある計算ができる。	・くり上がりのある計算の仕方がわかる。
	1. $(1 \text{ 位数}) + (1 \text{ 位数})$ でくり上がりのある計算ができる。	・くり上がりのある計算の仕方を考えようとしている。	・作業的, 体験的活動を通して, くり上がりのある計算の仕方について考えることができる。	① $(1 \text{ 位数}) + (1 \text{ 位数})$ でくり上がりのある計算ができる。 ②計算カードを使って, くり上がりのある計算の練習ができる。	・くり上がりのある計算の仕方がわかる。
	2. くり上がりのある計算を用いて, 問題を解くことができる。	・くり上がりのある計算を身のまわりの問題解決に用いようとしている。	・増加や求大などの問題を, 加法を用いて解くことができる。	・問題を加法の式に表し, 答えを計算で求めることができる。	・増加や求大などの問題は加法を用いて解けることがわかる。

ひき算(2)	・(十何)－(何)でくり下がりのある計算の仕方がわかる。	・進んでくり下がりのある計算を用いようとしている。	・くり下がりのある計算の仕方を、10の補数に着目して考えることができる。	・(十何)－(何)でくり下がりのある計算ができる。	・くり下がりのある計算の仕方がわかる。
	1. (十何)－(何)でくり下がりのある計算ができる。	・くり下がりのある計算の仕方を考えようとしている。	・作業的、体験的活動を通して、くり下がりのある計算の仕方について考えることができる。	①(十何)－(何)でくり下がりのある計算ができる。 ②計算カードを使って、くり下がりのある計算の練習ができる	・くり下がりのある計算の仕方がわかる。
	2. くり下がりのある計算を用いて、問題を解くことができる。	・くり下がりのある計算を身のまわりの問題解決に用いようとしている。	・求残や求差などの問題を、減法を用いて解くことができる。	・問題を減法の式に表し、答えを計算で求めることができる。	・求残や求差などの問題は減法を使って解けることがわかる。
おおよいかず	・2位数や簡単な3位数の数え方、読み方、書き方、大小、順序、系列がわかり、簡単な2位数の加減計算ができる。	・進んで2位数や簡単な3位数を生活の中で用いようとしたり、簡単な2位数の加減計算に取り組もうとしたりしている。	・2位数や簡単な3位数の表し方、簡単な2位数の加減計算の仕方を考えることができる。	・100までの数について、手際よく数えたり、正しく読み書きしたりすることができ、合成・分解、大小比較などができる。簡単な3位数の場合でも、正しく読んだり書いたりできる。また、簡単な2位数の加減計算ができる。	・数についての見方が豊かにでき、2位数や簡単な3位数の表し方や、簡単な2位数の加減計算の仕方がわかる。
	1. 100までの数の唱え方、数え方がわかる。	・100までの数を、落ちや重なりなく数えようとしている。	・10のまとまりに着目して、手際よく数える方法を工夫することができる。	・100までの具体物を10ずつまとめて数えることができる。	・100までの数の数え方がわかる。
	2. 100までの数の読み方、書き方がわかる。	・身のまわりの物の数を数えたり、書いたりしようとしている。	・十の位と一の位に着目して、100までの数の読み方、書き方を考えることができる。	・100までの数を正しく読んだり書いたりできる。	①「一のくらい」「十のくらい」の用語が使える。 ②2位数の位取りがわかる。
	3. 100までの数を合成したり、分解したりできる。	・数の表し方の面白さに気付いている。	・十進法のしくみに着目して、2位数を多面的にとらえることができる。	①100までの数について、10がいくつと1がいくつで合成できる。 ②100までの数について、10がいくつと1がいくつに分解できる。	①100までの数について、10がいくつと1がいくつで合成する方法がわかる。 ②100までの数について、10がいくつと1がいくつに分解する方法がわかる。
	4. 100までの数の大小や系列、順序がわかる。	・進んで数表を使い、数の順序などを調べようとしている。	・100までの数表から、数の並び方の規則性気付くことができる。	①100までの数について、数直線に表された数を読んだり、ある数よりも大きい数や小さい数を調べたりすることができる。 ②100までの数について、数の順序、系列がわかり、大小比較ができる。	・数表や数直線を使った、100までの数の順序、大小の調べ方がわかる。
	5. 120程度までの数の表し方がわかる。	・120程度までの数の表し方や系列を、進んで調べようとしている。	・百の位、十の位、一の位をとらえて、120程度までの数の表し方を考えることができる。	・120程度までの数を正しく読んだり書いたりすることができる。	・120程度までの数の表し方がわかる。
	6. 何十と何十の加減計算(和が100以内、被減数に100を含む)ができる。	・十を単位とした数の見方に着目して、進んで計算の仕方を考えようとしている。	・十を単位とした数の見方をもとに計算の仕方を考えることができる。	①和が100以内、何十と何十の加法計算ができる。 ②被減数に100を含む、何十と何十の減法計算ができる。	・十を単位とした数の見方をもとにした加減計算の仕方がわかる。
7. くり上がりやくり下がりのない、2位数と1位数の加減計算ができる。	・数のしくみに着目して、位に気を付けて計算をしようとしている。	数のしくみに着目して、計算の仕方を考えることができる。	①くり上がりのない(2位数)＋(1位数)の計算ができる。 ②くり下がりのない(2位数)－(1位数)の計算ができる。	・数のしくみから、2位数と1位数についても加法、減法ができることがわかる。	
たし算とひき算	・順序数を集合数に置き換えて考える加法や減法の問題や、異種の量についての加法や減法の問題を解くことができる。	・加法や減法を進んで用いようとしている。	・順序数の問題場面の中に集合数を見いだしたり、1対1対応の考えを用いて異種の量を同種の量ととらえたりして、加法や減法の式で考えることができる。	・順序数や異種の量の加減計算の立式ができる。	・順序数や異種の量の問題場面が加法や減法の式で表せることがわかる。
	1. 順序数に関する加減計算ができる。	・順序数の加減計算の仕方を考えようとしている。	・順序数の加減計算の場合も、集合数に置き換えて考えることができる。	・順序数の入った場面の加減計算の立式ができる。	・順序数を集合数に置き換えて加減計算ができることがわかる。
	2. 異種の量に関する加減計算ができる。	・異種の量を同種の量に置き換えて考えようとしている。	・異種の量の場合も、1対1対応によって同種の量としてとらえ、加法や減法の式で考えることができる。	・1対1に対応させ、一方の量を他方の量に置き換えて加減計算の立式ができる。	・1対1対応の考え方を用いて異種の量の加減計算ができることがわかる。

## B. 量と測定

- (1) 長さ、面積、体積を比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。
- (2) 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。

	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
B. 量と測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの長さ、面積、体積を調べることに親しみを持ち、量と測定について様々な経験をもとうとしている。また、時計に親しみを持ち、進んで時刻を読むようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの長さ、面積、体積を調べたり比較したりする活動を通して、数理的な処理に親しむ。また、時刻の読み方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にあるものの長さ、面積、体積を比較したり、ある長さ、面積、体積のいくつかで表したりすることができる。また、時刻を読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さ、面積、体積についての感覚を豊かにするとともに、測定についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。また、時刻の読み方がわかる。</li> </ul>
ながさ比べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な操作活動を通して、長さの概念と操作の基礎がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものの長さを比べたり、わかりやすく表そうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの比べ方や表し方を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較や間接比較、任意単位による数値化によって、長さを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較や間接比較、任意単位による数値化によって長さを比べる方法がわかる。</li> </ul>
	1. 直接比較によって長さを比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものの長さを、進んで比べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較による長さの比べ方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較によって長さを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較による長さの比べ方がわかる。</li> </ul>
	2. 間接比較によって長さを比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものの長さを、媒介物を使って比べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>媒介物を使った長さの比べ方を工夫して考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接比較によって長さを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接比較による長さの比べ方がわかる。</li> </ul>
	3. 任意単位を使って、長さを数値化することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものを単位として、長さを数値で表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位とする長さがいくつあるか数値化して表す工夫をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位を使って長さを数値で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位とする長さがいくつあるかで、長さを比べる方法がわかる。</li> </ul>
かさ比べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な操作活動を通して、かさの概念と操作の基礎がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのもののかさを比べたり、わかりやすく表そうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさの比べ方や表し方を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較や間接比較、任意単位による数値化によって、かさを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較や間接比較、任意単位による数値化によって、かさを比べる方法がわかる。</li> </ul>
	1. 直接比較によってかさを比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのもののかさを、進んで比べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較によるかさの比べ方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較によってかさを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較によるかさの比べ方がわかる。</li> </ul>
	2. 間接比較によってかさを比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのもののかさを、媒介物を使って比べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>媒介物を使ったかさの比べ方を工夫して考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接比較によってかさを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接比較によるかさの比べ方がわかる。</li> </ul>
	3. 任意単位を使って、かさを数値化することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものを単位として、かさを数値で表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位とするかさがいくつあるか数値化して表す工夫をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位を使ってかさを数値で表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位とするかさがいくつあるかで、かさを比べる方法がわかる。</li> </ul>
ひろさ比べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な操作活動を通して、広さの概念と操作の基礎がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものひろさを比べたり、わかりやすく表そうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広さの比べ方や表し方を工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較や任意単位による数値化によって、広さを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較や任意単位による数値化によって、広さを比べる方法がわかる。</li> </ul>
	1. 直接比較によって広さを比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものひろさを、進んで比べようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較による広さの比べ方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較によって広さを比べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較による広さの比べ方がわかる。</li> </ul>
	2. 任意単位を使って、広さを数値化することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりのものを単位として、広さを数値で表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位とする広さがいくつあるか数値化して表す工夫をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位によって広さを数値で表したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位とする広さがいくつあるかで、広さを比べる方法がわかる。</li> </ul>
とけい	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と関連させて、何時、何時半、何時何分を読みとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻に関心を持ち、進んで用いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計の針の位置に着目して、時刻の読み方を考える事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻を何時、何時半、何時何分と読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計で時刻の読み方がわかる。</li> </ul>
	1. 何時、何時半を読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計や時刻に関心をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短針と長針の位置に気をつけて、何時、何時半の読み方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何時、何時半を読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何時、何時半の読み方がわかる。</li> </ul>
	2. 何時何分を読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で、何時何分を用いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短針と長針の位置に気をつけて、何時何分の読み方を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何時何分を読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何時何分の読み方がわかる。</li> </ul>

## C. 図形

(1) 身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
C. 図形		・図形に親しみを持ち、図形について様々な経験をもととしている。	・図形に関する算数的活動を通して、数理的な処理に親しむ。	・身近な立体について、観察したり、構成したりすることができる。	・図形についての感覚を豊かにするとともに、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
かたちあそび	・形遊びを通して、立体図形や平面図形の特徴をとらえて弁別することができる。	・進んで身のまわりのものの形に関心をもち、観察したり、触れたり、構成したりしようとしている。	・身のまわりのものの形を抽象化して考えることができる。	・身のまわりのものの形の概形や特徴、機能をとらえることができる。	・観察や構成を通して形を認めたり、特徴を見つめたりして、感覚を豊かにしている。
	1. 直方体、立方体、円柱、球などの立体図形の特徴をとらえることができる。	・身のまわりの立体図形について、観察したり、触れたり、構成したりしようとしている。	・立体図形の特徴に気付き、似ているものと違うものに分けて考えることができる。	・はこ(サイコロ、つつ、たま)の形のものの仲間集めをしたり、それらを使って構成したりできる。	・身のまわりの立体図形について、外形に着目して、はこの形などを認めたり、特徴を見つけたりする仕方がわかる。
	2. 四角形、三角形、円などの平面図形を弁別することができる。	・身のまわりの平面図形について、観察したり、触れたり、構成したりしようとしている。	・平面図形の特徴に気付き、似ているものと違うものを分けて考えることができる。	・積み木やいろいろな箱の面を写し取って、いろいろな形をかくことができる。	・積み木やいろいろな箱の面を写し取る活動や、具体物の観察を通して、「まる」「さんかく」「しかく」のものがわかる。

7

## D. 数量関係

(1) ものの個数を絵や図などを用いて表したり、読み取ったりすることができるようにする。

	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
D. 数量 関係		・進んで数量を絵や図を用いて表したり、読み取ったりしようとしている。	・絵や図を用いた数量の表現や読み取りの仕方を考えることができる。	・絵や図を用いた数量の表現や読み取りができる。	・絵や図を用いた数量の表現や読み取りの仕方がわかる。
あ ら わ ず を つ か つ た	・もの個数を絵や図を用いて表したり、読み取ったりすることができる。	・進んでももの個数を絵や図を用いて表したり、読み取ったりしようとしている。	・絵や図を用いたもの個数の表し方や読み取り方を、工夫して考えることができる。	・いくつかの種類のを数えるときに、絵や図を用いて表したり、そこから特徴を読み取ったりすることができる。	・もの個数の絵や図を用いた表し方や読み取り方がわかる。
	1. もの個数を分類整理し、絵や図を用いて表したり、読み取ったりすることができる。	・進んでももの個数を分類整理し、絵や図を用いて表したり、読み取ったりしようとしている。	・もの個数を分類整理し、絵や図を用いて表したり、読み取ったりする方法を、工夫して考えることができる。	①いくつかの種類のを数えるときに、それらを分類整理し、絵や図を用いてわかりやすく表すことができる。 ②整理した絵や図から多い少ないなどの特徴をとらえることができる。	・もの個数を分類整理し、絵や図を用いて表したり、読み取ったりする方法がわかる。